

Keio University Shonan Fujisawa Campus 2026

慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス

総合政策学部／環境情報学部



あなたが、 未来を切り拓くのです。

Learning is Never Passive at SFC

総合政策学部・環境情報学部が追究する教育は、
「問題が与えられ、正解を教わる」のではなく、
「何が問題なのかを自ら考え、解決する方法を創造し、実践する」
（「問題発見・解決型」）というものです。

なぜなら、現実社会に存在する多くの問題は、
一つの学問（例えば経済学、医学といったもの）だけでは
解決困難なものだからです。

総合政策学部・環境情報学部は、分野を横断した
「問題発見・解決型」の学びで、未来を創造する
問題解決のプロフェッショナルを育成するキャンパスです。



Interview

躍動するSFCの学生



SFC の学生
<https://www.sfc.keio.ac.jp/magazine/students/>

※所属と学年は2023または2024年度の取材当時の学年です。

様々なバックグラウンドや、多彩なアイデアを持つ若者が集まるSFC。

刺激の混ざり合う環境と行動力で、自分のアイデアを具現化し、社会に実装していく学生たちを紹介。

高齢者を見守り 「痛み」に気づく対話ロボット

#ロボット #高齢化社会
#コミュニケーション #社会実装
#フィールドワーク #研究助成



島田 愛里 Airi Shimada
総合政策学部3年
(神奈川県・横浜雙葉高等学校 出身)

高校時代に老人ホームでのボランティアで、痛みを抱えているながら周囲に遠慮して我慢してしまう高齢者の悩みを知りましたが、その時は具体的な解決方法を見つけれませんでした。SFCに入學後、高汐一紀先生の授業で対話ロボットの存在を知り、「痛みの自己開示を促す対話ロボット」の研究が始まりました。現在は、山岸学生プロジェクト支援制度の研究助成を使って、鳥取県日南町でのフィールドワークで行政や医療従事者の方々にご協力をいただきながら、痛みを伝えやすい対話プログラムの開発を進めています。さらにユーザの小さな違和感から、センシングを通してロボットが「痛み」を検出し、痛みについて質問・記録して介助者や医師に伝えるシステムの構築にも取り組んでいます。

感覚を用いたBCI技術を 新たなエンタメ創出や社会貢献へ

#脳波 #BCI #電子
#エンターテインメント #VR
#社会実装 #先端研究



島田 温人 Haruto Shimada
環境情報学部3年
(茨城県・土浦日本大学高等学校 出身)

脳とコンピュータが直接通信できるような技術を、ブレイン・コンピュータ・インターフェース(BCI)といいます。BCIの研究に取り組むにあたり、温度感覚のイメージを分類するという新しい案を青山敦先生から提示いただき、私の「手指における温覚・冷覚想起に関する脳研究」が始まりました。これは、熱い・冷たいという指先の感覚を思い浮かべた際の脳波をリアルタイムで機械学習を用いて分類する研究です。この技術を応用すると「熱い」という感覚をイメージしただけで、ゲーム内で炎を放つといった体験が可能になります。今後の目標は、研究を発展させて実用的なBCI技術開発に寄与し、VR空間で「感覚」を活用した新たな体験を創出することで、将来的にはBCIを誰もが使える技術にして社会に役立てていきたいです。

アフリカでの 大豆ミート普及に向けた挑戦

#途上国支援 #大豆ミート
#研究助成 #BOP3.0
#多角的な学び #他学生との協働



横田 千花 Chihana Yokota
総合政策学部2年
(東京都・東京都立国際高等学校 出身)

私は現在、ケニアでの大豆ミート普及プロジェクトに取り組んでいます。高校時代から環境や健康のために日本での大豆ミート普及活動を行ってききましたが、SFCで持続可能な途上国支援に取り組む友人との共同研究をスタートしました。当初は現地での大豆ミート製造・販売を夢見ていましたが、路線を修正し、まずは日本での大豆ミートの「one for one(1つ買ったらもう1つを誰かに寄付する社会貢献)」イベントの成功と、その利益をもとにしたケニアへの寄付を目指しています。学部生でも応募できるSFCの研究助成を使って現地視察をしたことが、プロジェクトを前進させました。海外進出を目指す日本の大豆ミート企業へもアプローチし、共にアフリカ市場への参入に挑戦していきたいです。

データの精度を高めた 意欲的な研究へ

#神経科学 #学際的な学び
#学会発表 #研究助成
#研究の早期スタート



関 碧生 Aoi Seki
環境情報学部3年
(兵庫県・関西学院高等部 出身)

大学進学を機に新しい環境で高みを目指すために上京を決めました。SFCを選んだのは、入学後に専門を決められるという点に魅力を感じたからです。1年生で受講した多くの授業の中で神経科学に最も興味を持ち、2年生の春に牛山潤一研究会に入りました。テーマ選定に悩み抜き、「脳領域間の同期性が反応時間に与える影響」というテーマで研究に着手。興味深い現象を発見したことから3年生で学会発表を行うことができ、多くの研究者の方々から声をかけていただきました。しかし学会発表後、使用したデータにノイズが含まれていることに気づき、断腸の思いで研究を中止。その経験を糧にノイズ除去のノウハウを磨き、新たな研究に取り組んでおり、国際ジャーナルに論文を投稿することが目標です。

支えてくれる人のために、 世界女子相撲2連覇を目指す

#女子相撲 #世界大会優勝
#人との出会い #体育会 #スポーツ科学



長谷川 理央 Rio Hasegawa
総合政策学部3年
(青森県・青森県立木造高等学校 出身)

データに基づく気象学で、 航空機の安全な発着に貢献したい

#気象学 #分野の足し算・掛け算
#航空機の安全 #ORF #研究助成



久松 海人 Kaito Hisamatsu
総合政策学部3年
(神奈川県・桐蔭学園高等学校 出身)

自然との共生をつなぐ、 文化に乗せた「ものづくり」

#ものづくり #デザイン #Fab #文化
#持続可能性 #環境 #幅広い研究分野



安宅 絢音 Ayane Ataka
環境情報学部3年
(東京都・渋谷教育学園渋谷高等学校 出身)

ドローンの 実装的研究に突き進む

#ドローン #ロボット #社会実装
#キャンパス資源を活用 #分野横断的研究



木村 元弥 Motoya Kimura
環境情報学部2年
(鹿児島県・池田学園池田高等学校 出身)

学問分野の領域を超えて、 現実の世界と向き合う

総合政策学部長

加茂 具樹



政策を考える。そのための教育と研究に取り組む総合政策学部は、創設以来30年の実践をつうじて、確信していることが一つあります。それは、社会の秩序というものは変化するものであり、現実の世界に存在する問題を解決するための「政策を考える」学問も変化が求められる、ということです。いま、これまで当然とされていた価値観が流動しています。私たちが直面している問題の多くは、既存の解決方法を受け入れず、新しい思考を要求しています。現実の世界に存在する問題は、いずれも領域横断的です。そうだとすれば、学際的な領域に踏み込む学問をつうじてこそ、政策を考える力を養うことができるのです。これまでの学問は、とにかく深く、深く究めていくことが重要でした。もちろん、物事を深く探求することは必要です。しかし、それだけでは問題の発見すら覚束ません。そもそも、今注目している問題が、本当の問題ではないかもしれないのです。政策を考えると、現実の世界と向き合うことです。

日本、そして世界を変えていく 強い意志を持つ学生を育む

総合政策学部が取り扱う「政策」とは、政府が行うものだけではありません。英語のpolicyが企業の方策や個人の指針を指すように、政策は広く我々が現実と向き合う際に必要となるものです。そして、政策を考えるということは、単に問題を発見し、提言するだけではなく、主体的に、能動的に物事に取り組むことです。私たちは、総合政策という学問をつうじて、未来を見通す展望力、状況を捉える分析力、政策を設計する構想力、政策の意義を訴える説得力、政策を実施する実行力とともに、それらの力を総合する力を備えた学生を育てるのです。自ら実践し、日本、そして世界を変えていく意気込みを持つ学生の育成と、日本のみならず、グローバルな人的ネットワークの構築を総合政策学部は目指します。

不確実性の高い時代の 先導者たらん

環境情報学部長

一ノ瀬 友博



環境情報学部が誕生した1990年から35年の月日が経ちました。環境情報学部では、開設当初からインターネットがインフラとして整備されていて、インターネットの技術開発、普及を牽引してきました。でも、30年後にほぼ一人一台の小型コンピュータ（スマホ）を持ち、SNSで瞬時に情報が世界を駆けめぐり時代が来るとは、先頭を走っていた先輩たちですら想像していなかったかもしれません。2019年末から世界を席卷したCOVID-19は、私たちの生活を激変させました。近年私たちを取り巻く環境の変化は速く、予測が困難で不確実性が高くなっており、そのような状況をVUCA（volatility, uncertainty, complexity, ambiguityの頭文字をとった造語）と呼ぶようになっています。私たちはVUCAの時代を生きているのです。急激な温暖化や生物多様性喪失といった地球環境問題は私たちの将来に暗い影を落とす一方で、新たな技術は私たちが想像もしなかったことを実現します。

学問分野を横断した学びにより 変化に対応できる力を

地球の長い歴史の中で、数々の生物は私たちの想像を超える環境変化の影響を受けてきました。生き残ってきた種あるいはその子孫は、弱肉強食という言葉に象徴されるような競争に打ち勝ってきたというよりは、環境の変化に柔軟に適応してきたのです。環境情報学部において養われる学びは、この変化に対応できる力だと考えています。私たちの考える環境情報学は、「環境」と「情報」という言葉に留まらず、先端情報システム、先端領域デザイン、先端生命科学、環境デザイン、人間環境科学という5つの分野から構成されている学際的な学問分野です。環境情報学部は、先を見通せない時代を生き抜き、未来を創造する先導者を生み出します。



Academics

総合政策学部 環境情報学部

分野を超えた学びの往来が
問題発見・解決に導く創造性を刺激する

総合政策学部

Faculty of Policy Management

未来を切り拓くための 政策を考える

大きく流動するグローバル社会に生きる私たちは、既存の解決方法を受け入れず、新しい思考を要求する問題群と向き合っています。そもそも現実社会の問題群は特定の学問領域の内側に立ち現れるわけではありません。問題解決のための有効な政策的判断を導くためには、学際的、領域横断的な視点が必要です。総合政策学部は、政策を「人間が何らかの行動をするために選択し、決断すること」と捉え、社会的コミットメントと実践を通じて知を形成してゆくという「実践知」の考え方を掲げ、イノベティブな政策を生み出す力を涵養し、よりよい日本と世界を創造する志のあるリーダーを育てます。



アドミッションポリシー、
ディプロマポリシー、
カリキュラムポリシーは
こちら



国際戦略の分野

International Strategy

国際社会にはいま協調と対立の気運とが併存しています。世界をグローバル、リージョナル、ナショナルな視点から複眼的に捉え、多様な主体に焦点をあてた国際戦略とガバナンスのあり方について考えます。

複雑化する世界を捉える

グローバルに展開する政治・経済・社会現象を幅広く分析し、紛争と協調、成長と分配、統治と参加、技術革新の影響など、多角的な視点から世界を捉え、ガバナンスのあり方を追求します。

リージョナル・ストラテジー

グローバリゼーションの進展によって、地域のありかたが問われています。東アジア、欧州、米州、中東、アフリカなど、世界各地域でグローバリゼーションとそれへの抵抗が相克するメカニズムを考えます。

国境を越える問題への取り組み

戦争、貧困といった「脅威・欠乏からの自由」を確保し、安全・安心を実現するために何ができるのか、国際レベル、国家レベルの政策に加え、個人及びコミュニティのあり方を研究します。

外交・安全保障

東アジアは緊張の度合いを高めています。国際協調をとえなければ平和を達成できるというシナリオは現実味を失っています。いかにして、この地域における緊張を軽減できるかを総合的に考えていきます。



言語文化と コミュニケーションの分野

Language, Culture,
and Communication

言語は人々をつなぎ、文化を生み出します。言語の文化は、人間同士を結ぶコミュニケーションによって培われます。このような言語文化とコミュニケーションの視座から、世界のさまざまな現象・問題を考えます。

世界を理解し、 人々に発信する言語

従来の語学に留まらず、言語を通して世界の思想や文化、人々の生活について理解を深めます。また、高度に言語を運用できるプロフェッショナルとして、グローバルなコミュニケーションを行える能力を培います。

言語教育、言語政策

言語文化やコミュニケーションの問題について、第二言語習得論や学習環境デザインなどの観点から探求します。また、そのような言語教育上の研究を、多文化共生を目指す言語政策へと結びつけて発展させていきます。

言語そのものと 世界・文化の理解との関わり

言語にはどのような働きがあり、その言語を使って私たちはどのように文化的世界と、そして人々と関わっているのか。この問題について、社会言語学や文学・物語などの角度から取り組みます。

政治・社会における 言語コミュニケーション

言語コミュニケーションには、その時々々の社会や政治の問題が映し出されます。国内の使用言語をめぐる葛藤や、宗教と社会の関係、越境体験などです。これらの問題をさまざまなアプローチを通して考察します。



社会イノベーションと 経営・組織の分野

Social Innovation, Management,
and Organizations

スタートアップや老舗企業、NPO／NGO、政府機関等が、新しい発想と方法による課題解決を目指す社会イノベーションに取り組んでいます。研究と実践の融合の中から、「社会的な成果」と「経済的な成果」を追求する新たな方策を学びます。

経営戦略とスタートアップ

事業のスタートアップやベンチャーの成功には、ミッションの明確化、深い経営知識、迅速で的確な実行力が必要で、社会性も求められます。激動する環境において、これらを成し遂げるこれからの経営戦略を探究します。

組織マネジメントと 経営情報システム

あらゆる組織活動においてその担い手も顧客も多様な個人です。新しい時代のライフスタイルや顧客ニーズ、キャリアパス、リーダーシップ、組織文化の理解を深め、マーケティング、組織デザイン、人材開発等の発展を考えます。

ソーシャルビジネス・ NPO/NGO

社会課題の解決に取り組むソーシャルビジネスやNPO/NGOの歴史と現状を理解し、今後の新しい展開を構想します。社会起業家に求められる要素、組織や活動の方法、政策の考え方を実践的に身につけていきます。

情報社会のコミュニティデザイン

コミュニティや組織のガバナンスやプラットフォームのあり方を考えます。現代に求められる「安心・安全」「持続可能性」「社会的包摂」の実現方策など、マクロとミクロの視点から新しい社会のデザインに挑みます。



政策デザインの分野

Policy Design

変化を続ける政治・経済・社会的環境に適応し、毎日をより良いものにする手段として政策を広く捉える。政府や様々な主体が参加して政策をデザインし、国際競争力強化や地方創生に繋げる方法と概念を学びます。

政策研究の方法

政策研究は、理念や構想、政策立案および制度設計、政策実施から評価に至る一連の過程から構成されます。社会で起きている問題の本質を解きほぐし、解決策を探るための政策研究の方法を定性、定量、混合手法を横断しつつ身につけていきます。

経済と財政

国や自治体の政策を立案する上で、経済と財政は根幹となる部分です。厳しい財政状況という現実を踏まえ、実社会の問題解決に直結する経済分析に取り組み、理解を深化して現実的な政策に結びつけていきます。

政策立案と立法

技術革新、ダイバーシティの広がり、ボーダレス化に即した法制度や政策立案が求められるなか、SFCの強みを活かして、技術や社会環境の変化までも視野に入れた、持続可能な社会につながる具体的な政策立案や法制度について学びます。



総合政策学の 方法論の分野

Methodologies in
Policy Management Studies

総合政策学部で強調されてきたのは複数の分野を学ぶことで新しい問題解決の方法を切り拓くことでした。現在は、そうした「分野の掛け算」に加えて、必要に応じて新たな方法を学び取る「方法の足し算」へ歩を進めています。

総合政策学の方法を学ぶ

総合政策学は、世界を認識するための認識科学を前提に、目的の実現に向けて仕組みのデザインをよりよく行う設計科学を志向しています。そのため目的に応じて複合的に研究の方法を選び、組み合わせる方法を身につけます。

視点と価値観を共有する

具体的な方法にくわえて、視点や価値観を交わすことも問題解決に向けた研究と実践に欠かせない方法です。講義はもちろん、このキャンパスには多様な視点と価値観が共有され、研究の大きな基盤となっています。

認識科学から設計科学へ

設計科学を志向すると、よりリアルな認識科学が求められます。そのためにインタビューやフィールドワークといった定性的研究、データサイエンスや社会実験といった定量的研究、さらには両者を組み合わせた混合研究の方法を学びます。

研究と実践を融合して 社会を変えていく

研究の成果を生かすためには実践が欠かせません。研究会やプロジェクトでフィールドに出て現実の課題に取り組み、先輩にお話を伺い、その学びを還元させていく。そうした研究と実践の融合を重ねて社会を変えていきます。



環境情報学部

Faculty of Environment and Information Studies

「環境と情報の世紀」におけるグローバルリーダー

近年私たちを取り巻く環境の変化は速く、予測が困難で不確実性が高いVUCAの時代と呼ばれています。環境情報学部では最先端のサイエンス、テクノロジー、デザインを駆使し、柔軟に人文・社会科学と融合することによって、地球、自然、生命、人間、社会を理解し、未解決の問題に取り組み、解決策を創造します。学問分野を横断した学びにより変化に対応できる力を養い、先を見通せない時代を生き抜き、未来を創造する先導者を生み出します。



アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーはこちら



先端情報システムの分野

Advanced
Information Systems

コンピュータやネットワークはその存在を主張せず、情報システムは水や空気のように日常に溶け込み、我々の生活をさまざまな形で支援する、そのような先端情報システムを創造し、諸問題に挑みます。

インターネットシステム

社会活動や生活の安全・安心・快適を支えるインターネットやモバイル技術について、実際のネットワークを運用しながら実践的に研究します。

ユビキタス情報システム

AIを活用したセンシング技術やデータ処理技術等の高度化、ロボティクスや自動運転、ドローン利用システム等の実現など、情報の力で人や街を拡張する新しいユビキタスコンピューティングを研究します。

計算基盤システム

先端情報システムの基盤を支えるさまざまなシステムソフトウェアや量子コンピューティングをはじめとする新しい計算基盤システムについて研究し、それらを創出・運用できる技術者集団を育成します。

知識情報システム

人の体から宇宙まで、さまざまな対象から得られる超大規模データをリアルタイムに処理して新たな知を創造し、発展的に共有・抽出・検索・予測するサービスの基盤技術を研究します。



先端領域デザインの分野

Advanced
Design Studies

まだ確固たる名称のない、未知なるデザイン・研究領域(=X-Design)の開拓にチャレンジします。異端(eXtreme)かつ実験的(eXperimental)に、領域を横断・乗算(Crossing.X)し、真の自己表現(eXpression)を行ない、未来の地球・社会・文化のために貢献します。

デジタル・ファブリケーション／アルゴリズムック・デザイン

デジタル・ファブリケーションや3D/4Dプリンティング、コンピュータ・アルゴリズムを駆使して植物のように建築を育てたり、未知なるモノづくり領域の開拓に挑戦します。

美術・ランドスケープ・コミュニケーション

幾何学や美術、環境デザインや地図表現、歴史や地域景観、場づくりやコミュニケーションについて探究し、未知なる次の建築・都市・景観・場づくりをデザインすることに挑戦します。

アート・サイエンス・パフォーマンス

自らの直感に基づく芸術的な活動、実直なデータを収集し客観的な分析を中心とする科学的な活動を超越的に融合し、音楽や映像などの分野で、唯一無二の自己表現・パフォーマンスを探究します。

新たな循環デザインの開拓とまちづくりの実践

SFO周辺地域や、湘南地区の自治体などと連携しながら、既存物のリユース・リセール・リサイクル・アップサイクルを組み合わせ、転用や転生を基軸とした新しい循環デザイン手法を開拓し、実際のまちづくりへの応用を目指します。



先端生命科学の分野

Advanced Biosciences

SFCでは、医・薬・理・工・農・情報・政策を融合した世界最先端の生命科学を展開しています。分野にとらわれず、あらゆる学問を総動員して生命のしくみを解明し、健康・医療・食品・環境分野に貢献します。

先端健康科学

未来の健康長寿社会に貢献するために、最先端テクノロジーと健康政策などの社会科学を駆使して、文理融合の斬新な切り口で挑戦しています。

システム生物学

ゲノムやメタボロームなどのオミクス解析を実施し、それらの情報をコンピューター上で統合させ、複雑な生命をシステムとして理解しています。SFCはシステム生物学の世界的パイオニアです。

システム医科学

システム生物学を医学・薬学に応用し、分子生物学、情報科学、分析化学などを融合した新しい切り口で病気のメカニズムの解明や治療法の開発に貢献します。

環境生命科学

“地球の役に立つ”微生物や分子を探索しています。また、特定の環境下に存在する生物を遺伝子レベルで網羅的にモニタリングするなど、環境学にも大きく貢献しています。



環境デザインの分野

Environmental Design

建築・都市・地域レベルから地球レベルにわたるスケールの異なる幅広い視野で、持続可能な未来の環境デザインに関して、データ・エビデンスベースの実践的な教育・研究に取り組んでいます。

建築環境デザイン

建築空間のデザイン、構造のデザイン、生産手法などの建築の空間に関わる環境を意識し、実社会に展開するための構築方法やデザイン手法、IT技術の応用などのデザインについて実践的に取り組んでいます。一級建築士試験を受験できる授業体系となっています。

地域環境デザイン

リモートセンシング、IoTによるフィールドセンシング、地理情報システム、気象・気候解析などの空間情報技術やデータ分析技術を研究・開発・活用して、災害リスク適応や地域活性化の要請を捉えた脱炭素型社会・持続可能なまち・地域デザインの支援に取り組んでいます。

都市環境デザイン

都市の歴史や文化・文脈を読み解き、まちづくり、地方地域再生、生態環境や防災システムなどの視点も加え、都市や地方の環境の創造と保全を通じた安全で豊かなハードとソフトの環境デザイン研究と実践に取り組んでいます。

地球環境デザイン

地球規模の技術革新や国際的な協調関係の構築などを通じて、人新世代に突入した人類社会が直面する気候変動への対応、災害リスク軽減と持続可能な発展(SDGs)といった緊急な課題に対する戦略的な解決策を考え、実践的に取り組んでいます。



人間環境科学の分野

Human Environment

人間が身体や言語を駆使しながら環境と相互作用するプロセスと変化を、個人、コミュニティ、社会レベルで捉え、考察します。それにより、人間の認知や行動への深い理解と、健康でウェルビーイングな社会の実現を目指します。

言語の認知と学習

人間の言葉の理解や獲得における認知のメカニズムに、言語学・心理学・神経科学・デザイン学など多方面からアプローチし、状況や場の影響も考慮した人間の「知」を探究します。

メンタルヘルスサイエンス

人間の生理的・心理的な状態や諸機能を臨床心理・精神保健・数理モデルなど多様な手法を用いて探究するとともに、環境の改善を提案することで、人々のウェルビーイングの維持・向上を目指します。

社会・コミュニティとウェルビーイング

コミュニティや社会が複雑化・流動化していく中で、人間はどのように変化していくのか、多種多様な手段でその相互作用を捉えて考察し、健康・教育・文化の発展を促します。

身体動作の理解と学び

身体動作の制御や学習の原理を科学的に理解するために、生体力学や脳神経科学などからアプローチし、スポーツや芸術活動などの技能の向上や、失われた身体機能の回復のために役立てます。



Curriculum

学生もひとりの研究者 「研究会」を軸に 自由にカスタムする学び

総合政策学部・環境情報学部での学びの中心は「研究会」です。「研究会」も豊富な学問分野の科目も、必要な時に学べる「自由でユニークなカリキュラム体系」こそが、「学際的な学び」と「問題発見・解決」を叶えます。



WHAT

「研究会」は総合政策学部・
環境情報学部における
学びの中心

両学部の研究会の多くは「基礎積み上げ型」のいわゆる“ゼミ”ではありません。まず問題を発見し、その解決にアプローチするための研究に取り組みながら必要な基礎知識や手法を適宜修得していくことを重視します。研究会の一部では、企業との共同研究や官公庁からの委託研究など、実践的な研究活動が行われています。それらに参加して実社会の問題に取り組んだり、自ら研究会でリサーチや制作を通して高度な専門性を身につけ、自らの「未来創造の成果」として、あるいは社会へ提示する「自分自身のプロポーザル」として、卒業プロジェクトを作成します。

WHY

新たな知を創造し
「未来の先導者」を
輩出するために

先端研究には新たなアイデアが不可欠です。そのため、両学部では、自ら発見した課題を、既存の学問領域を横断的に活用した独自の метод論をもって解決するスタンスを重視し、それを体現する研究会を学びの中心に据えています。そして、それぞれの「自らの研究」を支えるため、基盤科目（共通）、先端科目のいずれも学部や学年を問わず各自のタイミングに合わせて履修が可能です。一人ひとりが独自のやり方で研究に取り組み、未来に向かって新たな知の創造に邁進できる仕組みを用意しています。

HOW

フレキシブルな
履修システム

研究会は「1年から所属」「掛けもち」「学期ごとの変更」も。

学生が能動的に自らの研究をつくり上げるために、複数の研究会に所属したり、学期ごとに研究会を変更することも可能です。また、本人の能力次第で1年生からでも研究会に所属できます。

学年に縛られない履修

「自分のテーマを見定めるため、広い分野の科目を履修したい」「4年生で新しい分野を学ぶ必要性を感じ、基礎から履修したい」など、その時に合わせた科目や研究会の履修が可能です。

ユニークな学び方「特プロ」「海外研修」
「フィールドワーク」「インターンシップ」

春夏の休校期間に実施される「特別研究プロジェクト」や国外各地で学ぶ「海外研修」を科目として履修することができます。その他にも「フィールドワーク」や「インターンシップ」などキャンパスの外の学習機会を広く提供しています。

学生は研究パートナー

「学生は研究パートナー」という文化が根付いています。新たな知の創造に向けた先端的な研究活動を行う両学部では、教員と学生が一体となって研究に取り組みます。教員の経験やサポートと、学生の発想やパワーの両方が先端研究には欠かせないからです。研究とは、誰かに教わるものではなく自らの手で実現されていくもの。ここでは学生がそれぞれ研究に没頭しています。学生も含めた「研究者」たちが互いを刺激し合う両学部のスタイルが、新しい知を創造するのです。教員も学生も半分は教えて半分は学び続ける存在であるという、福澤諭吉の「半学半教」の精神をまさに体現しています。

Be the Architect of Your Learning

学年不問だから基礎から応用まで自分のペースで学びを構築
知の土台となる基盤科目や、研究会や卒業プロジェクトへ導く先端科目を、在学の全期間にフラットに設置。
学年にかかわらず、学びたい科目を学びたいときに履修できます。

一部の科目はオンライン形式で開講しています。
オンライン授業は最大60単位まで卒業条件(124単位)に含めることができます。
※2024年12月1日時点

1 学年
大学生活に慣れるとともに、
基礎的な力を養成し、
今後の学習の基礎となる力をつける

2 学年
関心を持った領域の学びを広げ、
深めつつ、自分に合った研究会を探し、
参加する

3 学年
次の年に一緒に卒業プロジェクトに
取り組みたい教員を見定め、
履修許可を受ける

4 学年
学部での研究の集大成となる卒業プロジェクトに、2 学期(1 年間)かけて取り組む

大学院政策・メディア研究科

修士課程 博士課程

自由に選んで専門性を高めるための科目群

基盤科目(共通)／先端科目

先端科目
「基盤」となる科目を履修しながら、「研究会」「卒業プロジェクト」へと導く科目です。「基盤科目」よりも具体的に研究に接近し、「研究会」「卒業プロジェクト」の前提となる専門的・先端的な科目によって構成されています。

基盤科目(共通)
「先端科目」「研究会」へと研究を深めるための基盤として、総合政策学部・環境情報学部の幅広い学問分野の科目群から自由に選択できます。

- パターンランゲージ リフレクティブデザイン 公共政策
アルゴリズムックデザイン ペンチャー経営論 多文化コミュニケーション
ゲノム分子生物学 新事業創造ワークショップ 開発とローカリズム
外交と戦略 量子経済学 オープンデザイン戦略
地球システム 国際企業論 環境ヘルスサイエンス アナログ・デジタル電子回路基礎
芸術と科学 都市と環境 パブリックマネジメント
感覚の生理と心理 モノ創り実験工房 地域と社会 視覚メディア論
脳と行動 ヒューマンセキュリティ 日本の近現代
コーポレートガバナンス 生命現象と現実社会の比較論 量子情報処理 経営分析
- 地球環境技術論 イメージと精神分析
リーガルマインド 言語とヒューマニティ
ヒューマンコンピュータインタラクション スポーツエンジニアリング
NPO の設立と経営 宗教と現代社会 認知行動論
まちづくり論 デザインスタジオ 地方自治論
安全保障政策 メタボローム解析実習 パーソナルプレイスデザイン
組織戦略 グローバルガバナンス
音楽と脳 生命と知能の進化
政策過程論 感情と行動のコンピューティング
- ほか400科目以上

- 8つのプログラム
- GR: グローバル・ガバナンスとリージョナル・ストラテジー
HC: ヒューマニティーズとコミュニケーション
PS: 政策形成とソーシャルイノベーション
CB: 認知・意味編成モデルと身体スキル
EG: 環境デザイン・ガバナンス
XD: エクス・デザイン
CI: サイバーインフォマティクス
BI: 先端生命科学

基盤科目

基盤科目
学部を問わず、すべての学生が学ぶべき「基盤」を培うための科目です。入学後の早い段階から「研究会」や「卒業プロジェクト」に必要な言語・思考法・技法などを意識しながら履修計画を立てられるように、学びを支援します。

総合講座科目 SFC での学びを見渡す	総合政策学 環境情報学
ウェルネス科目 心身の健康を養う	心身ウェルネス 体育1～5
言語コミュニケーション科目 多言語を学び世界への「窓」を開く	英語 朝鮮語 中国語 マレー・インドネシア語 アラビア語 ドイツ語 フランス語 スペイン語 日本語 ロシア語 イタリア語
情報技術基礎科目 ICT を使いこなすスキルを磨く	情報基礎1・2 オブジェクト指向プログラミング基礎 システムプログラミング基礎 スクリプト言語プログラミング基礎
データサイエンス科目 データを駆使し分析する基礎を学ぶ	統計基礎 線形代数 微分・積分 問題発見・解決のための数学リテラシー 医療・健康のデータサイエンス 国際社会のデータサイエンス ほか

研究会

研究会
両学部における活動の中心で、「卒業プロジェクト」に向けて、教員と学生が共に考えながら、多様な課題に取り組んでいきます。
1 年次は履修許可が得られた場合、各学期1 科目まで「研究会」の履修が可能です。

卒業プロジェクト

卒業プロジェクト
「研究会」を中心とする両学部での学習の成果として、すべての学生は、卒業までに、論文の執筆や作品の制作などを行います。

3.5 年早期卒業制度
9 月入学者の4 月就職、4 月入学者の海外大学院進学などの支援が目的。また、大学院政策・メディア研究科の早期修了と併せることにより、5 年間で学部卒業+ 修士課程修了も可能です。

修士研究会

修士論文

博士論文

卒業・進級要件はこちら



<https://www.sfc.keio.ac.jp/academics/pmei/curriculum/feature.html#requirements>

ウェブ上のシラバスサイトで開講するすべての授業科目の内容をご覧いただけます。



<https://gslbs.keio.jp/pub-syllabus/search>

選択必修で知の技法の基礎を養うための科目群



150+ Seminars "kenkyukai"

Explore a Theme That Calls to You

バリエーション豊富な研究会で自分だけのテーマを深く究める

150を超える、総合政策学部・環境情報学部の研究会一覧です（2025年2月末現在）。
入学後でも「この分野を学びたい！」と思えば、それを網羅する研究会が両学部にあるため、
所属学部に限らない研究が叶います。一つの研究会に没頭するもよし、
研究会の掛け合わせで新しい発見をするもよし。あなたらしい研究生生活を実現しましょう。

研究会一覧

担当教員	研究会
青山 敦	● 脳情報の計測と解析
秋山 美紀	● 「ウェルビーイングに関する研究と実践」 ● SFCと地域とでつくる新しい居場所
安宅 和人	● 人類サバイバル時代における価値デザイン
荒川 和晴	● ゲノム生物学（先端生命科学）
アルマンスール、 アフマド	● イスラーム研究
飯盛 義徳	● 地域における効果的なプラットフォーム設計
石川 初	● 地上学への研究
石川 光泰	● サイバー防犯教育・社会安全政策論研究会
石淵 理恵子	● 演劇とジェンダー
一ノ瀬 友博	● ランドスケープ研究 ● ネイチャーポジティブ
井庭 崇	● 実践発想ストーリーズ・スタジオ × 創作研究ラボ（創造的な実践を促す漫画、アニメ・映画、絵本、ビジュアルノベル、歌の制作と方法研究）
植原 啓介	● ネットワーク運用と実空間インターネット ● 水俣研究
牛山 潤一	● 身体運動の神経科学 一脳と身体をひとつの“システム”として捉える一
内山 映子	● SFCと地域とでつくる新しい地域の居場所 ● ウェルビーイングに関する研究と実践
海野 敦史	● 情報通信法研究
ヴ、レ タオ チ	● 選択分析：政策と日常生活
大木 聖子	● 防災社会デザイン研究会
仰木 裕嗣	● (A) 3Dプリンティング技術の スポーツ・福祉・医療に向けた応用 (B) リンクセグメントモデル・粘弾性モデル等による ヒトや動物の運動解析
大越 匡	● サイバー・フィジカル・ウェルビーイングのための コンピューティング／AI技術 ● 次世代ユビキタス・インテリジェンス技術
大前 学	● スマートモビリティ ～車やバスの自動運転技術を学ぼう～ ● スマートモビリティ ～自動運転車や自動運転バスを創ろう～
小熊 英二	● 社会学の方法論 ● 近代社会研究
加藤 貴昭	● ヒューマンパフォーマンス
加藤 文俊	● 場のチカラ
金井 昭夫	● RNA機能解析（先端生命科学）
蜷江 憲史	● xSDG
加茂 具樹	● 現代中国政治外交と国際政治

担当教員	研究会
川口 航史	● 政治学日本語文献講読（1） ● 政治学英語文献講読（1）
川島 英之	● データプラットフォーム研究会
木原 盾	● 人口・社会動態の探究（研究編） ● 人口・社会動態の探究（文献購読編）
楠本 博之	● インターネットリサーチ
國枝 孝弘	● 臨床と教育 ● 言語と思想、言語と芸術
黒田 裕樹	● ボディプランニング解析 ● 発生・生殖工学の応用
桑原 武夫	● マーケティング・コミュニケーションと地域デザイン
巖 網林	● データドリブンによるスマート都市・地域の構築
河野 暢明	● 合成生物学（先端生命科学）
琴坂 将広	● 経営研究：優れた経営の実践と普遍的知見の探求から 近未来のあるべき経営を探る ● Management studies as a field of social science ● 国際経済学を学ぶ
小林 博人	● とりあえずやってみる：パーティシパトリー建築・都市・ コミュニティデザイン
齊藤 邦史	● 法律による問題解決の実践
堺 正太郎	● 惑星圏科学研究会
佐藤 豪竜	● 経済学とデータで読み解く現代社会のリアル （応用ミクロ計量経済学の実証分析）
サントーソ、 ベトルス	● 教育を通じたインドネシアのコミュニティのエンパワーメント
シェッターディ、 アキル	● 都市空間
篠原 舟吾	● 行政研究のフロンティア
島津 明人	● メンタルヘルスの研究と実践
清水 たくみ	● 未来の組織を探究する
清水 達郎	● 数学理論を追体験する 現象と関わる数学
清水 唯一朗	● 日本政治外交研究（JPD）ベーシック&アドバンストー 日本政治外交をよみやぶる
清水 亮	● オーラル・ヒストリー ―「聞く力」で未知を拓く一 ● 街へ出たなら書を読もう 一フィールドワーク経験から「書く」ためのトレーニング
ショウ、ラジブ	● アジアにおける環境、防災とコミュニティ開発
白井 裕子	● フォレスト・サイエンス・アンド・エンジニアリング
神成 淳司	● 食とフードサイエンス
新谷 ロクサナ	● Bilingualism and Heritage Languages (I)

担当教員	研究会
新保 史生	● 情報法研究会
神保 謙	● 国際安全保障とグローバルガバナンス
杉原 由美	● 異文化間コミュニケーション ー批判的パースペクティブ ● 多言語多文化共生社会と日本語
杉本 昌弘	● 医療データサイエンス（先端生命科学）
鈴木 治夫	● 鈴木 微生物ゲノム学（先端生命科学）／ 環境バイオインフォマティクス（先端生命科学）
諏訪 正樹	● 身体と環境にむきあい、知をデザインする生活
高木 丈也	● 朝鮮の文化・社会 ● 言語研究のインターフェース
高汐 一紀	● ソーシャルクラウドロボティクス 一共生・協働するロボットから共に発達するロボットヘー
高橋 裕子	● 変化する日本型雇用と労働政策の未来 ● ジェンダーについて話したい人のための研究会
武田 圭史	● メディア表現（映像、光、音響等）、生成AI, UAV／ ドローン、VR／AR／XR等先端技術の実践的应用
田島 英一	● 生活世界から考える公共性
田中 浩一郎	● 田中浩一郎研究会（現代中東政治研究）
田中 浩也	● マチモノツクリ研究会
玉村 雅敏	● ソーシャルイノベーション：「ソーシャルマーケティングと 価値共創」&「ソーシャル・プロデュースと共生」
千田 健太	● パフォーマンス評価、トレーニング科学
土屋 大洋	● グローバル社会の理論と政策
鶴岡 路人	● ヨーロッパ国際関係と国際安全保障 ● 国際政治、国際安全保障、現代欧州政治
鄭 浩淵	● 近現代中国研究
東海林 祐子	● コーチングとライフスキル ● コーチングとコミュニティ
伴野 崇生	● 日本における「難民・移民」と多文化共生
トレース、 ジョナサン	● Second Language Teaching & Learning
内藤 泰宏	● E-Cell プロジェクト（先端生命科学） ● 生命進化のシンギュラリティ（先端生命科学）
中川 エリカ	● 新しい建築の発明・発見を目指す
中澤 仁	● 街と情報
中西 泰人	● 新たなテクノロジーと経験のデザイン
中濱 優子	● 第二言語習得研究、 異文化間コミュニケーションと外国語教育
鳴川 肇	● デザインとジオメトリー
西川 葉澄	● 外国語学習のための「学びのコミュニティ」作りと複言語主義 ● コピーとオリジナリティ
野中 葉	● 現代東南アジア研究 ● ムスリム共生プロジェクト
長谷川 福造	● 行政に関する法システムと理論
服部 隆志	● 深層学習ー数理で理解する基本原理 ● ウェブアプリケーションシステム
華 金玲	● デジタル政策とメディア利用
林 公輔	● 回復
巴山 竜来	● xMath（理論） ● xMath（実践）
馬場 わかな	● 近代家族を再考する ● ドイツ語圏地域研究
バンミーター、 ロドニー	● 量子コンピューティングと量子インターネット
平山 明由	● 分散型のストレージシステムとネットワークアーキテクチャー
廣瀬 陽子	● 生体代謝プロファイリング
福島 康仁	● 地域研究とアカデミック・ディシプリンの対話と融合の模索
藤井 進也	● 宇宙政策 ● 音楽神経科学（NeuroMusic） ● エクス・ミュージック（x-Music）

担当教員	研究会
藤田 護	● 南からの思考 ースペイン語圏の社会と文化 ● SFC Kotan ーアイヌ語とアイヌ語口承文学を学ぶ
藤田 元信	● 科学技術と戦略的意思決定
古谷 知之	● セクシーなデータサイエンティストになろう（1） ● セクシーなデータサイエンティストになろう（2）
ヘニグマン、 デイビッド	● サブカルチャー、芸術運動、または音楽シーンを調査する 研究プロジェクト
保田 隆明	● コーポレートファイナンスとESG経営
細谷 浩美	● 建築と都市デザイン
マイヤー、 アンドレアス	● Current social, cultural, political and economic developments in Europe with a focus on German- speaking (other countries possible) .
松川 昌平	● アルゴリズムック・デザイン
水鳥 寿思	● スポーツパフォーマンス
三次 仁	● 応用ワイヤレス研究会
宮垣 元	● ソーシャルセクターとヒューマンサービスの社会学
宮代 康丈	● 政治哲学と倫理学
宮本 大輔	● 中国語の社会言語学的研究 ● 中国語のデジタル学習環境の構築
宮本 佳明	● 気象学研究会
森 さち子	● 間主観性
柳町 功	● 韓国・北朝鮮の政治・経済・社会 ● 日本・アジアにおける企業経営
矢作 尚久	● ヘルスケアシステムデザイン ● アントレプレナiershipと経営
山田 彬亮	● 言語学×デジタルヒューマニティーズ×フィールドワーク ● 理論言語学実践
山田 貴子	● 共創のための場づくり／ “わたし”を起点としたプロジェクトの実践／ 社会イノベーションの創出
山本 薫	● アラブ文化研究会 ● 中東社会文化論
横山 大輔	● 都市・地域計画研究会
吉井 弘和	● 日本社会の変革の実践知
脇田 玲	● 宇宙とアート
渡辺 将人	● アメリカ政治外交研究：デモクラシー、メディア、選挙
渡辺 光博	● ヘルスサイエンス（健康・幸福な街づくり） ● ヘルスサイエンス（健康科学）
渡辺 靖	● ソフトパワー研究（基礎編） ● ソフトパワー研究（上級編）
和田 直樹	● SFCキャンパスのサステナビリティと その他都市・農村の環境問題の解決策
藁谷 郁美	● 1) ことばとメディア 2) 外国語教育をデザインする （ツールや教材の作成・運用・評価など）

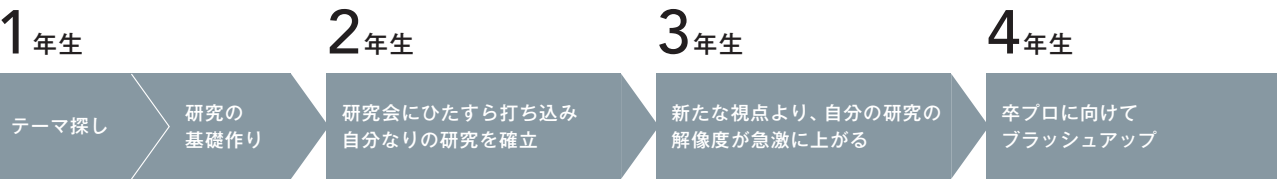
自由に探求できた、 私だけの学びの組み合わせ

学びが進んで初めて気づく必要な学問・研究分野も、総合政策学部・環境情報学部のカリキュラムなら自由に組み合わせた履修が可能です。学部も分野も横断できるため、ある科目の履修をつうじて思いもよらない視点や学びのセレンディピティ（幸運な偶然）を得ることも。研究会で学びを縦に深め、場合によっては複数の研究会で異なる軸足を作り、科目では学びを横に広げ、かつ研究をサポートする知識を補っていくことで、あなたの学びの意欲をあと押しします。



「メディア分析」×「自然言語処理」

片山 桃子 Momoko Katayama
総合政策学部4年



入学時に研究テーマは決めていなかったが「医療報道」への興味がわき、クラス担任に相談。秋学期から矢作研究会に入ることができました。秋学期は矢作研の基礎となる科目を履修しつつ、私の研究のもうひとつの軸「メディア分析」の知見を得るための科目も履修しました。

矢作研で「分析手法」を“縦に深く掘る”よう学び、一方、科目で「報道を受け取る側の人間が情報をどのように処理するか」を脳科学や認知心理学、言語学、社会学の視点から学び、“横に見識を広め”ました。SFCの幅広い研究分野を肌で感じ大きな刺激を得ました。

秋学期から小熊研究会にも入り、メディア分析の先行研究を社会学の観点から深めました。結果、矢作研で取り組んできた「自然言語処理の手法」が、メディア分析の研究分野における私のオリジナリティだと気づき、私の研究の全体像が見え、急激に解像度が上がりました。

卒業プロジェクトは「メディア分析」という社会的な問いに対し「自然言語処理」の手法を使って導き出す—SFCでしか出会えなかった私だけの研究。小熊研で「問いの立て方」を学び、矢作研で「答えの作り方、戦略」を学ぶことで作り上げることができました。

研究会　　－深く掘り進む－						
1 年春	1 年秋	2 年春	2 年秋	3 年春	3 年秋	4 年
研究会検討期間	矢作研究室（ヘルスデザインシステム）				小熊研究会（近代社会研究）	卒業プロジェクト「新型コロナウイルス感染症の新聞報道における発言分析」
科目　　－考え方を横に広げる、研究会に必要な知識を補う－						
日本の社会保障制度	政策形成とメディア	身体論	近代思想の世界	現代社会理論	運動の生理と心理	近代史
環境ヘルスサイエンス	産業保健心理学	言語動態論	音楽と脳	感覚の生理と心理		
法律学			生命と知能の進化	生命システム		
公共哲学			知覚運動スキル論	言語と思考		
			認知心理学	社会安全政策（防災）		
		ヘルスケアシステムデザイン概論（大学院設置科目）		エビデンスに基づく健康政策とコミュニケーション（大学院設置科目）	経営戦略特論（大学院設置科目）	

矢作研究会関連の科目群。科目履修では矢作研で必要な基礎や応用をサポートしつつ、研究会では修士や博士の先輩からもアドバイスをもらいながら「分析手法」を学び、「自然言語処理の手法」を究めていきました。

小熊研究会関連の科目群。当初は見識を横に広げる目的で小熊先生の科目を履修しましたが、自らの研究に重要な学びであることに気づき小熊研にも所属。社会的な問いである「メディア分析」を追求しました。

自らの研究の周辺知識として、サポートになると思い履修した科目群。SFCの幅広い研究領域を駆使して、自らの研究に役立てました。この中で小熊研にも出会い、私だけの研究を作り上げたといえます。

※実際に履修した科目のうちの一部です。 ※所属と学年は取材当時の学年です。

広く、深く、最先端の研究は ここから生まれる

SFCには、幅広い分野の先端研究を実践する教授陣や、産官学および国内外の関連活動と協調関係を育みながら研究活動を行う「SFC研究所」があります。意欲ある学生は教員のもと、実践的な研究の現場で社会課題に取り組んでいます。



幅広い研究分野の教員

SFCでは、他に例を見ないほど多様な研究分野を扱っています。様々な研究領域をカバーする教授陣のごく一部ではありますが、S-faceでご覧いただくことができます。

S-face
<https://sface.sfc.keio.ac.jp>

最先端の研究にふれる「SFC研究所」

SFC研究所は“先端的研究の遂行と研究成果の社会への還元”を目的とした、SFCの2研究科・3学部の附属組織です。意欲のある学生は教員のもとで、外部からの訪問研究者らとともに、最先端の研究活動にも参加することができます。

SFCの地域連携：キャンパスのある神奈川県藤沢市をはじめとした近隣自治体の他、全国各地の地方自治体と未来を共創する研究開発に取り組んでいます。

SFC 研究所
<https://www.kri.sfc.keio.ac.jp>



SFCの研究助成制度

SFCではキャンパス独自に多種多様な助成制度を設けて学生の学習・研究活動を支援しています。学部在籍時より助成をうけて研究活動を行うことができるのは、慶應義塾はもとより国内大学の中でも例を見ないSFCの大きな特徴です。SFCの教育の特長「学部生から主体的な研究ができる環境」を体現した制度です。

SFCの研究助成
https://www.sfc.keio.ac.jp/studentlife/research_grants/

鶴岡タウンキャンパス「先端生命科学研究所」

山形県鶴岡市にある、慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス（TTCK）には、先端生命科学研究所が設置されており、メタボローム解析をはじめとする最先端の生命科学研究が展開されています。総合政策学部・環境情報学部の学生はTTCKでも授業を履修できます。「バイオキャンプ」プログラムでは、2学期間（または1学期間）TTCKに滞在し、最先端の実験機器を実際に使いながら生命科学の基礎を学ぶことができます。

世界を広げ、理解を深める 異文化交流



SFCは開設以来、多様な言語教育プログラムを展開し、海外からの学生に対応した9月入学・卒業制度をいち早く導入するなど、グローバルな人材育成と研究活動を重視してきました。異文化交流の豊かな体験は、目の前の問題をグローバルに捉え解決へと導く、多面的な視点や柔軟な思考力を養います。

SFCの多言語教育・海外研修制度

言語の学びは、視野を広げる窓

総合政策学部・環境情報学部では11言語を履修できます。これらの言語教育は教養という名でおこなわれる知識レベルの科目ではなく、自己を発信できる運用能力を身につけることを学習目標とした実践的科目群であり、体系化されたコースを全語種が共通して構築しています。言語を学ぶことは価値観・世界観の違いの理解につながり、未知の世界が広がります。

海外研修制度

SFCでは、夏季・春季休校の期間に7つの国と地域で独自の夏季・春季海外研修も実施。毎年150名程度の学生が参加するこの海外研修は、海外の大学における講義やディスカッションなど、質の高い学習活動を通して言語運用能力の向上を目指すことが可能です。もちろん研修成果は単位に認定されます。

留学

海外で暮らし、学び、解像度を上げる

慶應義塾大学には、世界の150を超える大学との間で実施している交換留学制度があります。世界トップレベルの大学で1年間を過ごす経験は、SFCでの学びをさらに深めてくれます。単位認定制度・在学期間算入制度を使って4年間で卒業することも可能です。また、長期休校期間を利用して、オックスフォード大学やケンブリッジ大学の短期プログラムに参加することも可能です。

交換留学先の例：

カリフォルニア大学、ブラウン大学、ジョージタウン大学、カーネギーメロン大学、バリ政治学院、HEC経営大学院、SOAS、エジンバラ大学、ボン大学、ジュネーブ大学、北京大学、清華大学、延世大学、ソウル国立大学、シンガポール国立大学、シドニー大学、オーストラリア国立大学 など

11言語

マレー・インドネシア語 アラビア語
スペイン語 朝鮮語 ドイツ語
フランス語 中国語 英語
日本語 ロシア語 イタリア語

2024年度海外研修実績

言語	研修機関	人数
アラビア語	Center for Cross Cultural Learning (CCCL)	15
マレー・インドネシア語	サティア・ワチャナ・クリスチャン大学	37
朝鮮語	漢陽大学校国際教育院、国立ソウル大学校 言語教育院	28
中国語	北京大学国際合作部留学生事務室、国立台湾師範大学 国語教学センター	11
ドイツ語	ドレーズデン大学、フライブルク大学、ビーレフェルト大学	10
スペイン語	Bolivar Education Spanish School、TANDEM サンセバスティアン、コレヒョ・デリーベス校、レトラ・イスパニカ	6
フランス語	アリアンス・フランセーズ・ノルマンディー、アリアンス・フランセーズ・エクスマルセイユ・プロヴァンス、CAVILAM / アリアンス・フランセーズ、ラバト国際大学	10



海外留学の奨学金

慶應義塾では、海外留学の奨学金として、以下を設けています。

- ・慶應義塾大学交換留学生（派遣）奨学金
- ・慶應義塾創立150年記念奨学金 海外学習支援
- ・石井・石橋基金 慶應義塾大学グローバルフェローシップ（私費留学助成）

また、国、地方自治体、社団法人や財団法人をはじめとした、学生に対する一般的な海外留学奨学金を受けるためのサポートも行います。

GIGAプログラム

多国籍な仲間たちと、 日常的に英語でコミュニケーション

SFCには、英語で学位を取得できるGIGA (Global Information and Governance Academic) プログラムがあり、約40の国と地域から集った優秀な留学生・帰国生が学んでいます。2024年度は170以上の科目がGIGA科目として開講されました。両学部の学生は、学年、入試形態等にかかわらず、日本語でも英語（GIGA科目）でも自由に履修が可能で、日本にしながら英語で学ぶことが可能です。さらに、所定の要件を満たすことによりGIGAサティフィケートを取得することができます。



- ☐ SFCでは受験システム（国内生／留学生など）によってカリキュラムやコースを分けていません。つまり、日本語・英語それぞれで開講される授業に国内生、留学生、帰国生が混じりあう環境です。この環境が「日本にしながらの国際交流」も可能にしています。
- ☐ GIGAプログラムで提供される授業は基礎的な科目にとどまらず、先端科目や研究会なども含まれます。先端的な教育を留学生と共に受け、英語でのディスカッションやプレゼンテーションの機会を得られます。

VOICE



GIGAプログラムで養った英語力で 目標だった海外留学へ

海外の在住経験はなく一般選抜でSFCに入学し、英語力向上のために履修科目の一部を英語（GIGA科目）で履修しています。GIGA科目の特徴は英語で授業を受けられること。ディスカッションやプレゼンテーションなど英語を能動的に使う機会や、留学生との交流も多く、SFCの中で留学さながらの経験を積むことができます。GIGAサティフィケートの制度（一定の単位数をGIGA科目で取得するなどの諸条件を満たせば認定される）も、英語で授業を受けるモチベーションになります。昨年はGIGAでの学びを活かして、目標のひとつとしていた交換留学にもチャレンジできました。将来グローバルに活躍するために、この経験や英語力を生かしていきたいです。

三宅 隆太 Ryuta Miyake 総合政策学部3年

VOICE



SFC is the perfect place if you are looking for a truly international campus with a touch of Japanese culture.

My initial plan was to go to University in Germany and then come to Japan. However, when I did some research, I found Keio SFC. I was fascinated from the first second. Even though I was not 100% confident in my Japanese then, SFC stood out as an international place where fluent Japanese is optional from the start. SFC can be international but can also be Japanese. The idea of connecting with Japanese students, learning about a new culture, broadening my horizons, and getting an education in a safe and economically stable country helped me with my decision. SFC will be the perfect place if you are looking for an international and Japanese campus.

ブロイヤー マクシミリアン P. Maximilian Breuer Faculty of Policy Management 2nd year



「暮らす」

H (イータ) ヴィレッジ

知的没入を支える

グローバルな

国際学生寮

あたらしくて古い

Hヴィレッジは、寝食をともにしながら学び、自由闊達に語らう場所です。書を読むこと、学ぶことを日常の中心に据えて暮らす。じつは、そのスタイルは、とくにあたらしいものではありません。『福翁自伝』を読むと、随所から当時の「塾風」が伝わってきます。160年前の書生たちは、とにかくよく勉強したようです。いつ、どこにいても学ぼうとする。知的な没入は、時間が経つのを忘れさせるものです。だからこそ、学びと暮らしを切り離すことなく、近づけておくことに意味があります。慶應義塾の学生寮で、キャンパスのなかにあるのはHヴィレッジだけです。まさに、暮らしのなかに「塾」があります。それは、「実学」の精神を具現化した姿だといえるでしょう。



H (イータ) ヴィレッジ
<https://h-village.sfc.keio.ac.jp/>



「創る」

β (ベータ) ヴィレッジ

未来のキャンパスは

自分たちで創る

滞在型教育・研究施設

βヴィレッジは、未完成を連想するギリシャ文字「β」を冠し、永遠に完成させない、変わり続けるキャンパスの一部として名づけられました。2015年には、学生・教職員・卒業生による「SBC (Student Built Campus)」が発足し、SBC合同研究会の学生と教員が中心となって「未来のキャンパスは自分たちで創る」をコンセプトに掲げ、新しいキャンパス作りに取り組んでいます。このプロジェクトを通じて、デザインや用途が異なる全7棟の施設群を建設し、「計画」「設計」「施工」「運用・検証」「解体」までを自分たちで企画・運営することを目指しています。このプロジェクトは建物のハード面にとどまらず、そこで行われる教育プログラムや運用システムといったソフト面の開発にも取り組むことで、今までにない新しい大学のあり方を構想します。



β (ベータ) ヴィレッジ
<https://b-village.sfc.keio.ac.jp/>



2023年3月に開寮した、慶應義塾唯一のオンキャンパス国際学生寮です。多くの寮室は、国内生と留学生の5名1ユニットであり、日本全国・世界各地から集まった多様な価値観を持つ学生たちが「暮らしながら学ぶ、学びながら暮らす」を実践しています。



全7棟の個性豊かな施設からなる、学生や教員、研究者が寝食をともにしながら研究に打ち込むための滞在型教育研究施設です。研究会の活動や、ものづくり、様々な教育研究活動に活用されています。



Graduate

自分らしさを活かした 新たな価値創造を探る

井上 千聖 Chisato Inoue

ソニー株式会社 共創戦略推進部門 UX デザイン企画部
2016年 環境情報学部 卒業 ※所属は取材当時

会社ではプランナーやビジネスプロデューサーの仕事をしています。これまでヘッドホンやイヤホンなどのパーソナルオーディオ機器や、それらと接続して使うアプリ (Sony | Sound Connect) の企画を担当する傍ら、Sound AR™*という聴覚でARを体感するプロジェクトに携わり、社内外のメンバーと共創しながら音のARにおける新規価値を探索してきました。また、個人のアート活動ではいけばな草月流師範として作品を手がけ、そのひとつとして電子機器と植物を組み合わせた作品も定期的に発表しています。SFCではデザインという概念の幅広さやデザインを通じて社会課題を解決するための道筋を学び、手を動かしてアイデアをカタチにする大切さやおもしろさを経験しました。やりたいことに自由に挑戦で



きる土壤があり、自分の知識や経験を活かし仕事やアート活動で新たな価値を創造していこうとする私の姿勢は、まさにSFCで培われたものだと思います。

ヘッドホンやカメラなど電子機器と花材を組み合わせたシリーズ作品「ハナテク」

* Sound ARとは、現実世界に仮想世界の音が混ざり合うソニーによる新感覚の音響体験です。

実社会に息づくSFCスピリッツ

多種多様なキャリアを描く、SFCの卒業生。グローバルに、ローカルに、常に新しい時代を切り拓く感性と心意気で社会を動かしています。



SFC ウェブサイト「SFCスピリッツ」
多方面で活躍する卒業生のコラムを掲載
https://www.sfc.keio.ac.jp/alumni_stories/

卒業生の進路

卒業後の進路は、企業への就職が全体の約7割、1～2割が進学、1～2割はその他の進路となっています。多くの学生が、自身のキャリアを見据えて大手企業への就職など着実な一歩を踏み出す一方で、SFCの特長である進取の気性から、創立当初より起業家を数多く輩出しています。初期の卒業生が起業に携わったIT企業が現在では大手の企業となったケースもある一方、さまざまな社会課題を解決する社会起業家も活躍しています。

●慶應義塾（学部のみ）



●総合政策学部・環境情報学部



■ 主な就職先（人数順）

アクセンチュア／リクルート／ペイカレント・コンサルティング／博報堂／サイバーエージェント／電通／東京海上日動火災保険／PwCコンサルティング合同会社／EYストラテジー・アンド・コンサルティング／デロイトトーマツコンサルティング合同会社／三菱UFJ銀行／みずほ証券／楽天グループ／三井住友海上火災保険／ADKホールディングス／キーエンス／パーソルキャリア／横浜銀行／全日本空輸／大和証券／日本航空／富士通／野村證券／鹿島建設

■ 主な進学先

慶應義塾大学（研究科） 88人
その他日本国内の学校等（学部または研究科） 28人
海外大学／大学院 21人
注）SFC CDPオフィス調べ（慶應義塾サイト非公表）

Scholarship

慶應義塾の多彩な奨学金

奨学金
https://www.sfc.keio.ac.jp/admissions/financial_aid.html



慶應義塾には優秀な学生の支援を目的とした「慶應義塾大学給費奨学金」や経済的困窮者向けの「慶應義塾大学修学支援奨学金」、卒業生からの支援を基にした20以上に及ぶ「指定寄付奨学金」等、学生のニーズに対応する約110種類もの学内奨学金（給付型・返済不要）が用意されています。これらの奨学金は、卒業生や篤志家との強固なつながりによる国内最大規模の奨学金基金を原資とした本学独自のものです。この他にも、学外奨学金（給付型／貸与型）として、100以上に及ぶ「民間団体・地方公共団体奨学金」や、「日本学生支援機構奨学金」などがあり、学生が奨学金を受けるためのサポートを行います。

首都圏以外の日本国内に住む受験生向けの予約型奨学金

- 総環のすゝめ奨学金
AO入試で高い評価を受けた合格者を対象とする奨学金
https://www.sfc.keio.ac.jp/doc/soukannosusume_scholarship.pdf
- 学問のすゝめ奨学金
受験前に採否の結果がわかる、一般選抜受験生向けの奨学金

Entrance exam

未来へのスタートライン

SFCは、AO入試（アドミッションズ・オフィスによる自由応募入試）を国内ではじめて取り入れたキャンパスと言われています。開設時から続くAO入試をはじめ、5種類の入試制度を用意。「SFCで学びたい」という明確な意志を持った多彩な個性に応えます。新たな時代を切り拓くチャレンジは、ここから始まります。

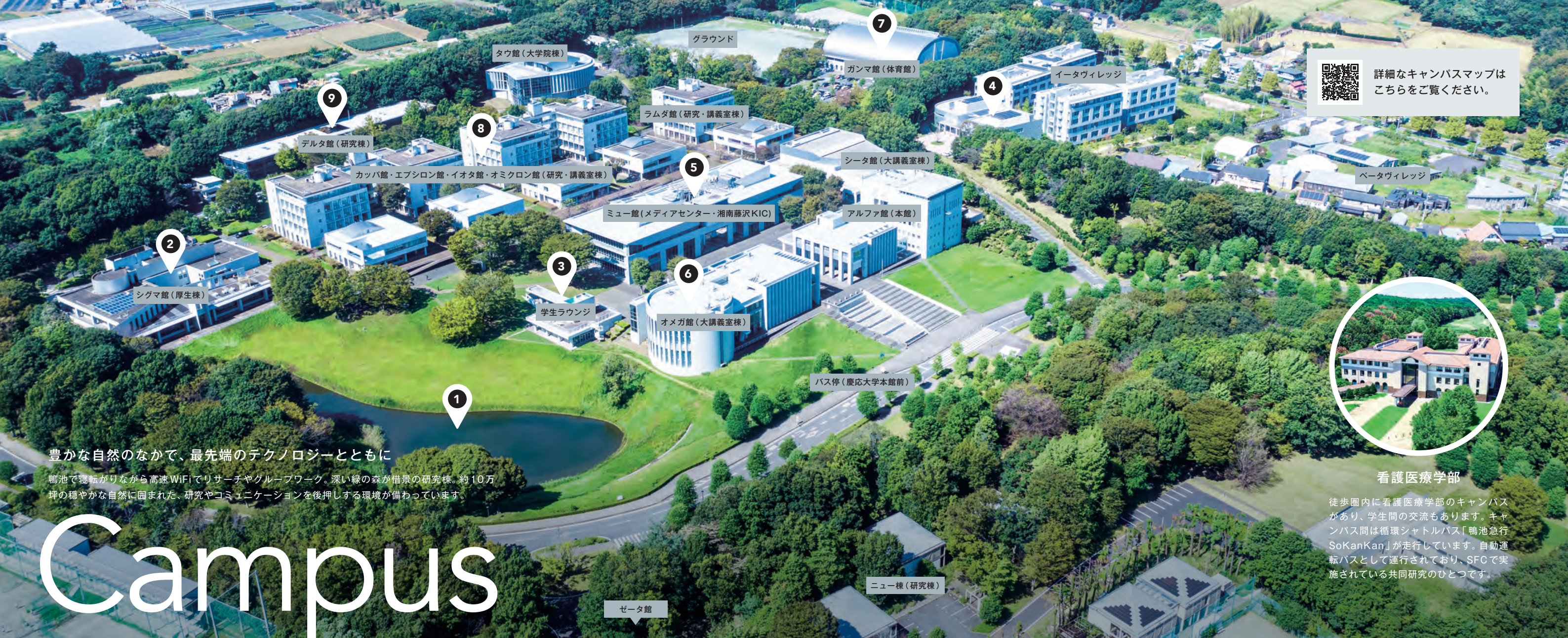
入学試験制度一覧						
総合政策学部 環境情報学部	種類	4月入学	9月入学	出願言語	選考方法	お問い合わせ先
	一般選抜	○	／	日本語	筆記試験	慶應義塾大学入学センター TEL 03-5427-1566 E-mail admissions@info.keio.ac.jp
	夏秋AO入試・春AO入試	○	○	日本語 英語	1次：書類審査 2次：面接	慶應義塾大学湘南藤沢事務室アドミッションズ・オフィス TEL 0466-49-3407 E-mail ao-request@sfc.keio.ac.jp
	冬AO入試 (Admissions for the GIGA Program)	○	○	英語	書類審査 とビデオ審査	
	帰国生対象入試	○	○	日本語	1次：書類審査 2次：小論文	慶應義塾大学入学センター TEL 03-5427-1611 E-mail admissions@info.keio.ac.jp
	外国人留学生対象入試	○	／	日本語	1次：書類審査 2次：面接	

受験生向けイベント

- SFC万学博覧会（オープンキャンパス・ORF）（例年11月頃）
<https://expo.sfc.keio.ac.jp/>
- 未来構想キャンプ（例年7～8月頃）＊高1、2対象
<https://www.sfc.keio.ac.jp/pmei/camp/>

最新の入学情報については、
下記URLをご参照ください。
<https://www.sfc.keio.ac.jp/admissions/undergraduate/>





詳細なキャンパスマップは
こちらをご覧ください。



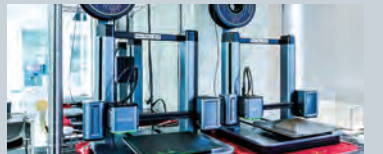
看護医療学部

徒歩圏内に看護医療学部のキャンパスがあり、学生間の交流もあります。キャンパス間は循環シャトルバス「鴨池急行 SoKanKan」が走行しています。自動運転バスとして運行されており、SFCで実施されている共同研究のひとつです。

豊かな自然のなかで、最先端のテクノロジーとともに

鴨池で寝転がりながら高速WiFiでリサーチやグループワーク。深い緑の森が借景の研究棟。約10万坪の穏やかな自然に囲まれた、研究やコミュニケーションを後押しする環境が備わっています。

Campus



① ガリバー池（鴨池）

正式名称はガリバー池ですが、鴨池という名で親しまれています。学生たちは池のほとりの芝生でくつろぐことを「カモる」と表現しています。

② 学生食堂・鴨池ラウンジ

シグマ館地下に「生協食堂」と個人やグループで自由に使える「鴨池ラウンジ」、地上階にはカフェテリア「レディバード」があります。

② 生協・コンビニエンスストア

シグマ館の地上階に生協売店があり、書籍やOA周辺機器、文具などの販売、また運転免許教習所の手続きもできます。地下には「ローソン」があります。

③ 学生ラウンジ・鴨池テラス

ラウンジには「サブウェイ」があり、その屋上は「鴨池テラス」と呼ばれています。朝から夜まで多くの学生が集う、「鴨池」に臨む憩いの空間です。

④ ソルトダイニング（ランチのみ）

オンキャンパス国際学生寮「イータヴィレッジ」の食堂ですが、ランチタイムはどなたでも利用できます。

ファブキャンパス

SFCでは、多彩なファブリケーション機器を分散配置し、独自のICTシステムで運用。キャンパス全体をスマートな「循環型」ファブリケーションの実験場として推進しています。

- メディアセンター：ファブスペース（3Dプリンタ、レーザーカッター、デジタル刺繍ミシンなど）
- オミクロン館：IoTデバイス（電子工作・ロボット）
- ペータヴィレッジ：DFF-W（木工の工作施設）、建築、アトリエ

⑤ 湘南藤沢メディアセンター

図書・雑誌・電子資料のほか、ファブスペースや撮影機材、音響・映像編集用機器、スタジオ設備など、さまざまなコンテンツ制作が行える環境を提供しています。

⑥ 大講義室棟

SFCの象徴ともいえる丸いオメガ館と、大きなステージが特徴のシータ館には大講義室があり、SFC生なら誰しもが学ぶ場所です。

⑦ 体育館・ジム・グラウンド

ガンマ館1階はウェイトトレーニングができるジムや、柔道場、剣道場など、2階にはアリーナとフィットネスルームがあります。

⑧ 研究・講義室棟

カッパ、エプシロン、イオタ、オミクロン、ラムダの5つの研究・講義室棟は学生と教員が日常的にコミュニケーションを図ることを目的に設計、配置されています。

⑨ 研究棟

キャンパス各所に点在し、それぞれに趣向を凝らした研究棟（デルタ、ゼータ、ニュー）には共同研究室があり、学生は所属する研究室で研究に没頭します。

24時間キャンパス

SFCには「残留」という言葉があります。研究室や特別教室で、学生は昼夜を問わずキャンパス内で課題や研究に取り組むこともできます。

ACCESS



東京駅から

JR 東海道線 戸塚駅 横浜市営地下鉄ブルーライン 湘南台駅 約 50 分
JR 東海道線 辻堂駅 約 50 分

新宿駅から

小田急線 湘南台駅 約 50 分

横浜駅から

横浜市営地下鉄ブルーライン 湘南台駅 約 40 分
相鉄線 湘南台駅 約 30 分
JR 東海道線 戸塚駅 横浜市営地下鉄ブルーライン 湘南台駅 約 30 分

辻堂駅から

〈バス〉
北口 2 番バス乗り場から神奈中バス
辻 34 系統 慶応大学 辻 35 系統 慶応中・高降車場
行きに乗り、「慶応大学」「慶応大学本館前※」まで約 25 分

湘南台駅から

〈バス〉
西口 B 出口から地上に上がり 1 番バス乗り場から神奈中バス
湘 23 系統 慶応大学 湘 24 系統 笹久保経由慶応大学
湘 25 系統 急行・慶応大学 行きに乗り、
「慶応大学」「慶応大学本館前※」まで約 15 分



※休日は「慶応大学」が終点です。

見学をご希望の方

慶應義塾大学湘南藤沢事務室 総務担当
sfc-visiting@sfc.keio.ac.jp

受験生のための KEIO NAVI

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/keionavi/>



SFC 公式 SNS



Instagram:
sfc_keio



facebook



X:
KeioSFC



慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス



〒 252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322
<http://www.sfc.keio.ac.jp/>

SINCE 1990

湘南藤沢キャンパス（総合政策学部・環境情報学部）の開設から 35 年。学生を「未来からの留学生」と呼び、常に新しい時代を切り拓く感性とスピリットを醸成してきました。かつて未来からの留学生だった卒業生たちは、実社会に飛び出した今も、まだ見ぬ世界に向かって歩み続けています。